

石井満教授定年退職記念号発刊に寄せて

高崎経済大学経済学会理事 池田 幸典

石井満先生は、平成20年3月31日をもちまして、定年のため、高崎経済大学経済学部を退職なされます。このことを記念いたしまして、本学経済学会では、退職記念号（『高崎経済大学論集』第50巻第3・4合併号）を発刊いたします。

石井満先生は、昭和17年に群馬県高崎市でお生まれになり、昭和43年3月に東京理科大学大学院理学研究科を修了されました。その後、群馬県立藤岡高等学校、群馬工業高等専門学校を経て、昭和56年に高崎経済大学経済学部にて専任講師として着任され、以後、助教授、さらには教授として、27年の在職期間にわたり、長らく本学の研究・教育に携わってこられました。この間、学生委員長、学生部長、付属情報センター長などを歴任され、本学の研究・教育行政にかかわる要職を担われてきました。この長きにわたり、本学ならびに本学会の発展のために寄与され、多大なるご尽力・ご貢献をなされましたことを、ここに御礼申し上げる次第です。

先生の主たる研究テーマは、多変量解析による倒産理論の研究、およびGI/G/(many server)型queue理論の研究であります。多変量解析や待ち行列理論を、倒産分析や交通渋滞問題などといった現実の問題に応用され、研究を進めてこられました。そこには、様々な社会問題に関心を持ち、数学や統計学を分析ツールとするという、問題意識の高さ、視野の広さ、あるいは応用力の高さがうかがえます。ベルトコンベアシステム解析のシミュレーションに関する研究や、銅線加工や心金加工部品生産における最適生産に関する研究などのように、生産現場と結びついた研究も手がけておられ、研究内容も多彩であります。

先生の単著書としましては、『経済経営系の統計学』（森北出版、平成3年）、『多変量解析』（青山社、平成13年）の2冊があります。共著書も2冊あり、論文も多数書かれています。学会活動も活発で、オペレーション・リサーチ学会、日本統計学会、日本数学会、日本数学教育学会、日本応用統計学会、日本情報処理学会、日本経営数学会といった多数の学会に所属され、幅広く活躍されています。また、社会的活動においても、経済企画庁官房委託委員会委員や農林水産省大臣官房情報化対策委託調査事業委員会委員などを歴任され、大学外で

も幅広く活躍されています。

先生は、教授会の席においても、問題点があれば、ズバツとその本質を指摘され、そして的確で筋の通った議論を展開されます。単に論理的であるだけでなく、大学をより良くしようという意識が表れているのであろうと推察されます。学問に対しても、大学の教育・行政に対しても、真摯に取り組んでこられた先生は、本学にとって貴重な存在であったといえるでしょう。先生のような貴重な存在を、いかに制度上のこととはいえ、定年によって失うことは、非常に残念であり、大学にとっても大きな損失であると思います。しかしながら、先生の学術研究がここで終わりを迎えるわけではありません。今後も、さらに高い水準の研究業績をあげられることであらうと存じます。

これまで、長い間、ご指導ご鞭撻くださいまして、誠に有難うございました。ここに改めて、先生がますますご健勝であられますことを祈念いたしますとともに、今後のご研究の発展とご多幸をお祈りいたし、結びにしたいと存じます。